

# 厚岸町海事記念館



## 通信

2009.12.

No.13

### 正行寺鐘楼が国の登録文化財になりました!!

去る平成21年8月7日、正行寺(厚岸町梅香)境内にある鐘楼が、登録名称「正行寺鐘楼」として国の登録有形文化財となりました。

正行寺鐘楼は、明治41年(1908)に建立されました。国の重要文化財に指定されている正行寺本堂の北西に位置し、その造りは、桁行一間、梁間一間の入母屋造りで、吹放ち鐘楼となっています。唐戸面取の方柱を四方転びに建ててあり、足固貫と内法貫、頭貫、台輪で固めてあります。組物については三斗組で、中備に曇股を配し、一軒疎垂木とし、格天井を貼っています。屋根は、建立当初はイチイ材の葺きでしたが、大正12年と平成20年に改修され、現在は銅板葺きになっています。

正行寺には鐘楼の建設経過を記した「記録帳」が今も残されています。それによると、明治41年10月上旬に、当時、正行寺総代を務めていた上田勘兵衛氏が鐘楼を寄附することとなり、大工の大口菊治郎氏を棟梁に、大工四、五名で昼夜の別なく作業をこなし、同年同月に落成する運びとなりました(鐘楼の虹梁内側には「維時明治四拾壹年拾月吉日鐘楼建築竣成/願主上田勘兵衛」の刻銘あり)。なお、鐘楼建立当時の梵鐘は、明治41年3月下旬に越中(現富山県)高岡市から運ばれてきたものですが、その後、第二次世界大戦中に供出され、現在ある梵鐘は昭和32年(1957)に製作されたものです。



このように、国指定重要文化財「正行寺本堂」の移築された年代(明治期)と同時期の建物であり、歴史的景観に寄与するものとして指定されました。お近くにお立ち寄りの際は、見学してみてもはいかがでしょうか。

正行寺鐘楼

### 郷土館・太田屯田開拓記念館 **休館** のお知らせ

現在、郷土館・太田屯田開拓記念館は、冬期間(11月16日から4月15日まで)休館となっています。休館中のお問い合わせなどは、海事記念館までお願いいたします。

## 満天の星空のもと「秋のほしぞら教室」を開催しました

10月28日(水)、厚岸町立床潭小学校グラウンドを会場に、秋のほしぞら教室が開催されました。当日の夜空は月がよく見え、天体を観測するにはちょっと月光が強かったのですが、逆にその月をこころゆくまで観察することができました。会場で解説して下さった釧路市子ども遊学館の多胡孝一さんや佐野真由美さんの話では、今年の釧路での観測会ではこれほど澄み切った夜空の中で星をみることはできなかつたそうです。やはり、参加してくれたみなさんの日ごろのおこないがいいからかも。

さて、参加者の興味を引いたのはなんとといっても釧路市子ども遊学館かやって来た移動天文車「カシオペヤ号」!! 月表面のクレーターや木星が手の届きそうなどところにあるかのよう

に感じることができました。ちなみに、解説してくれた遊学館スタッフの佐野さんが持っていた、星を指し示すレーザービーム、あれには驚きました。たぶん、参加した子供たちはみな「これ、欲しい」と思ったのではないのでしょうか。そういう私も実は欲しいと思いました。

来年も、みなさんに天体観測の楽しさをお届けできればと思っています。



床潭小学校のグラウンドにて

## 江戸時代末期の国泰寺の冬を読み解く

10月24日(土)、釧路短期大学の佐藤宥紹教授をお招きして平成21年度の古文書教室を開催しました。題名は「『日鑑記』記録を読む～国泰寺の師走天保2年」。これまで当教室では、国の重要文化財にもなっている『日鑑記』をとおり、江戸時代末期、蝦夷三官寺の一つに数えられた国泰寺の春、夏、秋を読み解いてきました。そして、今回はいわば最終章。この師走(冬)をもって、春夏秋冬、一年間を読み終えることになるものでした。

講義は、天保2年(1841)の12月7日から晦日までの約1ヵ月間の寺務や出来事について原文を読みながら解説いただきました。古文書読解の定型句や省略された語句、例えば、「福山」と表現されているのは巨福山建長寺であったり、「政首座」は国泰寺初代住職の文翁智政を、「等座元」は様似の等澍院をあらわしていることなど、文字の読み方だけではなく、語句に関する歴史的な部分についても、参加者の目線で丁寧にご説明いただきました。



釧路短期大学教授 佐藤 宥紹 氏

## 野付通行屋跡遺跡にふれて

10月1日(木)から約1ヶ月間、海事記念館において開催していた文化財交流展示「江戸時代のノツケを探る～野付通行屋跡遺跡発掘調査から～」が11月8日(日)をもって無事終了することができました。

野付通行屋跡遺跡は根室海峡に突出した野付半島の先端部に位置し、江戸時代末期、人馬継立、宿泊、郵便を取り扱い、急を要する場合には早馬、早船などの用意のある施設に関する遺跡です。特にこの野付通行屋は、国後島への渡海の際の要津として、また根室、厚岸及び標津、目梨への交通の拠点としての位置を占めていたそうです。また、昭和30年代後半の調査により、その所在が確認され、文献資料と現地遺構が残されている点で、北海道内でも希有な遺跡としても知られています。ところが近年、海面の上昇や地盤沈下など、海水の浸食被害を受け、崩壊の恐れがあるとのことで、平成15年度から平成18年度にかけて自然崩壊にともなう埋蔵文化財発掘調査が実施されました。今回の展示はこの成果をもとにおこなわれたものでした。

会場には、野付通行屋遺跡を説明したパネルとともに紅皿や香油瓶といった磁器類、寛永通宝などの古銭、鉄製品など、出土した資料や、平成15年度の測量調査で確認された畑跡の土層断面の剥ぎ取りも展示されました。これは、近世の道東地方における和人の畑跡として特筆すべきもので、その構造確認と栽培植物の特定のための調査も実施されました。



畑跡の土層断面の剥ぎ取り

なお、この展示は、別海町郷土資料館ならびに同館の付属施設でもある加賀家文書館の全面的な協力のもと開催されました。別海町郷土資料館の職員のみなさん、この場をかりて感謝申し上げます。

## 近隣の文化財を満喫した「ふるさと教室」!!

今年のふるさと教室は、海事記念館で開催した文化財交流展示と合わせるかたちで、別海町へ行ってきました。訪問先は、奥行臼駅通(北海道指定有形文化財)、奥行臼駅(別海町指定有形文化財)、別海町郷土資料館、加賀家文書館、そして、最後にお隣り浜中町の霧多布湿原センターと、大変盛りだくさんな内容となりました。別海町では同町郷土資料館の石渡一人学芸員に各施設を案内していただき大変有意義な時間を過ごすことができました。今回のように、近隣の博物館施設などの見学をとおして、参加者一人ひとりがわが町厚岸の歴史を再確認するきっかけにしていいただければ幸いです。



北海道指定有形文化財「奥行臼駅通」

## 町指定無形文化財「厚岸かぐら」が披露されました

毎年のように、11月は厚岸かぐらが披露される行事が目白押し。11月8日(日)には第10回厚岸町障害者(児)ふれあいフェスティバル「こう福祉21」で披露されました。会場では、厚岸かぐらの演目の一つ、「餅搗き舞」でついたつきたての餅を厚岸かぐら同好会と厚岸かぐら少年団がお皿に載せて会場を回り、来場者のみなさんに振る舞いました。見て楽しんで、食べて楽しんで、二度美味しい、厚岸かぐらでした。また、同じく11月の22日(日)、厚岸町民文化祭の芸能発表でも披露され、会場からは温かい拍手をいただきました。



厚岸町民文化祭

### 【お知らせ】

さて、厚岸町の無形文化財に指定されている「厚岸かぐら」。この民俗芸能を舞っているのは、その保存・伝承活動に取り組んでいる厚岸かぐら同好会のみなさんです。現在、この厚岸かぐらを後世に伝えようと、「厚岸かぐら少年団」を組織して踊りの指導もおこなっています。町内の小・中学生で、厚岸かぐらを踊ってみたい、興味があるというお友達は、ぜひ、海事記念館までご連絡下さい。一緒に踊りましょう。

## アッケシソウ日記

今年もアッケシソウの色づく時期になりましたと言いたいところですが、この通信がみなさんのお手元に届く頃には赤い色も茶色に変わり、種ができる頃だと思います。

今年も、本当に苦労した一年で、反省と課題ばかりが残るものでした。とにかく、決定的だったのは、アッケシソウ以外の植物の生長の激しさに翻弄されたということです。海水を撒布しても他の植物の生育をくい止めることには繋がらず、しかも、他の植物の中にアッケシソウが埋没している状況でした。海水撒布の回数も去年に比べると二倍以上に入れる頻度を増やしたのですが……。

そこで、来年につなげるために、11月中旬に耕耘作業を実施し、できるだけ他の植物を除去しました。これが功を奏してくれることを祈るばかりです。ただ、祈ってばかりはいられないので、土の入替や土壌分析などもおこなっていく予定です。



港町アッケシソウ栽培地の耕耘作業

### 編集後記

「厚岸町海事記念館通信」第13号 2009.12.発行

【編集・発行】

厚岸町海事記念館

〒088-1151 北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地

Tel/Fax (0153)52-4040

ホームページ <http://www.town.akkeshi.hokkaido.jp/kaiji>

11月の初旬に道東地方を襲った台風18号。建物内に雨水は吹き込むし、史跡国泰寺跡の木々はなぎ倒すし。自然の力には絶対勝てないと思いました。勝とうと思うこと自体、間違っていると改めて認識した次第です。(車塚)